

サトリの
ココロ [月1連載]

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
お坊様に聞く、弱い自分と向き合う方法——

静岡刑務所・駿府学園教誨師、
日蓮宗感應寺住職

伊藤通明さん

第2回

「教誨^{きょうかい}」とは、刑務所や少年院
など矯正施設の被収容者に対して
宗教的情操教育を行うこと。私は
その活動を行う「教誨師」を40年
近く務めています。

教誨師をしていると、いろいろ
なことがありますよ。以前、タク
シーに乗ったときのこと。途中で
運転手さんがメーターを切ってし
まったのです。彼は私に言いまし
た。「私は(タクシー会社の)社長

に可愛がられてるから、これくら
いのことは自分の裁量でできます
よ」。でも私は、顔を見ても名前を
見ても誰だか分からない。すると
彼は「先生もお変わりないです
ね」と言いました。「私はよく先生
のお話を聞きましたよ」と。刑務
所で毎月、私の教誨を聞いていた
男性でした。更生して出所後もま
じめに働き、社長にも可愛がられ
ていると聞き、私は教誨師をやっ
ていてよかったと心から思いまし
た。

「よい縁」を求めて 生活することが大切

しかし、教誨師を始めたばかり
のころは私も若く、身構えて難し
い話ばかりしていました。でも、
自分で消化しきれない話をし
ても、相手に感動を与えることは
できないと徐々に知りました。私
も同じ人間なのだから、同じ目線
で話す。そして何より、彼らの話
をじっくり聞いてあげること。話
を真剣に聞き、「うん、うん」とう
なずく。それで彼らは「理解して
くれる人がいた」「自分は人じゃ
ない」と救われるのです。

彼らには、「社会に出たらよい
縁を求めなさい」と話します。悪
いことをすれば悪い結果になる
……それが因果ですが、仏教では
間に「縁」を入れ「因果」と考え
ます。因は直接的、縁は間接的な
原因。たとえ悪い原因を作っても、
よい縁を求め触れることで、よい

結果を得ることが出来る……これ
が仏教の解釈なのです。

「よい縁を求めて生活する」こと
は、私たちにとっても大事なことです。
例えば、人の話を聞かず、自分の
話ばかりする人がいたら、周りの
人に嫌がられるでしょう。友だち
や同僚が、よい友だち、よい同僚
になるかどうか……よい縁になる
かどうかは自分の姿勢でも変わっ
てくるのです。まずは「相手の話
を聞く」という姿勢が大切です。

親として子どもの手本に なるような言動をすること

子育てでも同じ。みなさんは自分
の子どもには「よい子に育ってほ
しい」と思っているでしょう。でも、
子どもというのは親の言うことは
聞きませんね。反抗し、反発する。
それでいいのです。その中で成長
していくのですから。何でも思っ
たとおりにしちゃうなんて、親の思い
上がり。叱る前に、子どもの話を
よく聞いてあげてください。子ど
もに言う前にまず、自分の行動を
見直してください。子どもは親を
見て育つていきます。よい子に育
てたかと思ったら、自分が子ども
の本になるような日常生活を送る。
これは無言の教育です。



平成17年に完成した感
應寺の新本堂はモダン
な建物

「よい縁」を求め
触れることで
よい結果が生まれるのです

